



山形大学 (山形県)



言葉の世界を探検し、日常会話から古典文学作品まで学んでみませんか？

■大学紹介

① 大学の特色および概要

山形大学は1949年に創設されたが、その歴史は、19世紀、1878年の山形師範学校創立に遡る。今日の山形大学は、6学部、6研究科、1教育院から成る。教員約850人、総学生数約10,000人を有し、山形県内に設置されている主たる総合大学として、研究・教育の中心となる役割を果たしている。その教育理念は、総合大学としての特徴を活かし、自然科学、人文・社会科学が連携した専門教育と幅広い教養教育を行うとともに、地域社会に根ざし国内はもとより国際的にも活躍できる人材を育成することである。また、優れた研究成果を生み出すことにより、「自然と人間との共生」という目標を実現し、社会に貢献することを目指している。

② 国際交流の実績 (2016年10月1日現在)
海外機関との交流協定数：41カ国・地域175機関

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生の受入れ実績
2016年：留学生数221人、日研究生2人
2015年：留学生数214人、日研究生3人
2014年：留学生数202人、日研究生3人

④ 地域の特徴

山形県は、四季に恵まれ、自然を身近に感じることができる。県内全域にわたって温泉を楽しむことができ、温かい人々とふれあうことができる。

■コースの概要

① 研修目的

日本事情・日本文化に関する研修を主とし、補助的に日本語能力の向上のための研修を行う。

② コースの特色

山形大学には、日本語・日本文化に関する幅広い領域の科目があり、充実したコースが組まれている。日本語科目は、研究に必要な基礎となる言語能力を伸ばすよう授業が構成されている。多文化交流科目と各専門科目では、言語学、文学、歴史、異文化交流、社会学、地理、経済、政治、音楽、美術、教育など様々な角度で日本文化を学ぶことができる。また、1年計画で自らの選択したテーマに沿って研究プロジェクトを行うことが本プログラムで特に力を入れている点である。口頭発表をし、修了論文を書くことのできる日本語力をつけることを達成目標としている。

③ 受入定員 大使館推薦・大学推薦 各2名

④ 受講希望者の資格、条件等

- 1) 主専攻あるいは副専攻が日本語・日本文化に関する分野であること。
- 2) 日本語能力試験 N2合格以上またはそれに準ずる日本語力を有することが望ましい。日本語を使って自分の考えが表現でき、日本人と話し合うことのできる日本語力を持つこと。

⑤ 達成目標

生きた日本語が使われている環境で、山形の人々との交流を通して、地域に根ざした日本文化への理解を深める。また、専門科目を受講して日本語による学術的な内容の理解力を養い、同時に自ら行う研究プロジェクトを通して、その運用力を身につける。

⑥ 研修期間 2017年10月1日～2018年9月30日

宿舎には2017年9月下旬に入居できる。修了証授与は2018年9月。

⑦ 研修科目の概要

授業は前期・後期各15週開講される。授業にはⅠ、Ⅱ、Ⅲの三つの種類がある。Ⅰは留学生向け日本語科目で、Ⅱ、Ⅲは日本人学生とともに学ぶ科目である。

このプログラムを修了するには12科目以上の履修が必要である。そのうち6科目以上は、Ⅰ、Ⅱの分野から選択するものとする。

- 1) 必須科目：Ⅰの分野の研究プロジェクトを必修とする。
- 2) 参加型科目：Ⅱの科目では、地域の人々と交流する。
- 3) 選択科目：Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの各科目は、Ⅰの研究プロジェクト以外、すべて選択科目である。

※〔前期〕：4～8月開講科目〔後期〕：10～2月開講科目

Ⅰ 日本語科目

a. 基盤教育日本語科目

日本語中級1「総合」(北川絹代・鈴木寛子) 中級前半〔前期・後期〕

日本語中級1「読む」(内海由美子) 中級前半〔前期・後期〕

日本語中級1「書く」(薄井宏美) 中級前半〔前期・後期〕

日本語中級2「総合」(菅原和夫・横沢由実) 中級後半〔前期・後期〕

日本語中級2「読む」(薄井宏美) 中級後半〔前期・後期〕

日本語中級2「書く」(内海由美子) 中級後半〔前期・後期〕

漢字4(横沢由実) 中級漢字〔前期・後期〕

日本語上級1「読む」(黒沢晶子・園田博文) 上級前半

一般書の抜粋や新聞記事から情報を読み取り、自国と他国との比較対照を行う。〔前期・後期〕

日本語上級1「話す」(内海由美子) 上級前半〔前期・後期〕

日本語上級1「書く」(黒沢晶子) 上級前半：日本語でレポート・論文などの学術的文章を書くのに必要な、基礎的な力を養う。〔前期・後期〕

日本語上級1「聞く」(内海由美子) 上級前半〔前期・後期〕

日本語上級2「読む」(遠藤義孝) 上級後半：文法の復習や読解を行う。〔前期・後期〕

日本語上級2「話す」(菅原和夫) 上級後半：大学生活で必要な聞いたり話したりする力を伸ばすことを目標とする。〔前期・後期〕

日本語上級2「書く」(渡辺文生・内海由美子) 上級後半：大学の授業を受講する上で必要となる日本語力の向上を目指す。特に大学の学習・研究活動に必要とされる「書く力」の養成を目指して練習を行う。〔前期・後期〕

研究プロジェクトⅠ：〔後期〕

研究プロジェクトⅡ：〔前期〕

本プログラムの必修科目。指導教員の個別指導を受けて選んだテーマについて、日本語で研究レポートを書く。学期の最後には、各自のテーマについて最終発表を行う。

b. 人文社会科学部専門日本語科目

日本語（一）（二）（中澤信幸・渡辺文生）

N1対策・スピーチ〔前期〕、読解・聴解・作文〔後期〕

日本語コース授業時間数

- ・日本語中級1・2：各学期 210時間
- ・日本語上級1：各学期 120時間
- ・日本語上級2：各学期 90時間
- ・研究プロジェクトⅠ・Ⅱ 各学期 30時間
- ・日本語（一）（二） 各学期 30時間

Ⅱ 日本文化・多文化交流・地域学科目

日本文化入門（尤 銘煌）

地域のリソースを活かし、茶道、こけし絵付け、平清水焼き、座禅、温泉などの日本文化を体験しながら学習する。〔前期・後期〕

多文化交流Ⅰ（尤 銘煌）

日本の通過儀礼：日本人が妊娠、誕生、生育、成人、結婚などの折節に行う冠婚葬祭を通して日本文化・日本社会を理解することを目的とする。〔前期〕

多文化交流Ⅱ（内海由美子）

在住外国人の日本語教育：外国語として日本語を学ぶことの意味を考える。また、留学生と日本人学生のディスカッションを通して、他文化を知り、自文化を理解し、自己を再認識することも目的とする。〔前期〕

多文化交流Ⅲ（尤 銘煌）

日本人の死生観：通過儀礼の中で最も重要で、伝統的であり、最も複雑な葬送儀礼を通して、日本人の死生観を探り、日本文化・日本社会を理解することを目的とする。〔後期〕

多文化交流Ⅳ（ラインホルト・グリンド）

ヨーロッパと日本：ヨーロッパと日本の文化に焦点を当てる。〔後期〕

フィールドワーク共生の森もがみ

山形県北部の最上地方で地元の達人を講師に、森と関わる暮らしや独特の祭りの山車作り等を体験する。

〔前期・後期〕



山車作り

Ⅲ 人文・社会科学科目

a. 人文社会科学部教員担当科目 * 基盤教育科目

日本語学特殊講義（中澤信幸）

日本語の歴史について、特に文献研究の立場から考察を進める。〔後期〕

ことばの分析（言語学）*（渡辺文生）

言語学の基礎的知識について解説する。〔前期〕

日本語音韻史入門（言語学）*（中澤信幸）

日本語音韻の歴史的変遷について解説する。〔後期〕

日本語学概論（中澤信幸）

日本語と日本語教育について解説する。〔前期〕

日本語学文法講義（渡辺文生）

現代日本語の記述的文法を解説する。〔後期〕

日本語学特殊講義（渡辺文生）

現代日本語の語用論的な研究について解説する。〔前期〕

日本語学講読（中澤信幸）

日本語の歴史分野に関する文献を読み進める。〔後期〕

映像学講義（大久保清朗）

映画の分析論。日本映画の分析を含む。〔前期〕

日本古典文学講義（宮腰直人）

主に室町期から近世初期までの物語・説話などを読む。

〔後期〕

日本現代文学講義（森岡卓司）

明治以降平成までの小説、詩、評論などを読む。〔後期〕

仏教入門（文化論）*（松尾剛次）

仏教とは何かについて日本仏教に注目しながら論じる。〔前期〕

中世都市鎌倉の風景（歴史学）*（松尾剛次）

日本中世の武士の「首都」鎌倉の実体を語る。〔後期〕

中国文学文化演習（福山泰男）

漢文を日本語の文法にしたがって読む。（漢文訓読の学習）

〔前期〕



お花見

地誌学（山田浩久）

地域で観察されるさまざまな現象と歴史的、自然的風土との関係を理解する。〔後期〕

基礎講義（文化解釈学）（人文学部教員）

文化研究の基礎概念と方法を概観し、それらを文学、映画、美術、映像芸術、マンガ等々の様々な対象の解釈、さらには、国家、共同体、諸文化の相互関係に関する諸問題の考察に適用する仕方を紹介する。

〔後期〕

文化交流史（伊藤豊）

明治期の日米文化交流についてフェノロサと岡倉天心に焦点を当てて論じる。〔前期〕

日本外交史（松本邦彦）

明治以降の日本外交史を映像資料、文献資料をもとに概観し現代の視点で追体験してゆくことで、今後の日本の外交政策を考えて行く上で必要な歴史知識を得てもらう。〔前期・後期〕

日本経済史（岩田浩太郎）

鎌倉時代から明治時代の経済史を講じ、日本社会の特質をあきらかにする。〔後期〕

b. 地域教育文化学部教員担当科目

国語学概論A（園田博文）

音声・音韻、書記、語彙、方言を中心に日本語の概要を解説する。〔前期〕

国語学概論B（園田博文）

文法、敬語、日本語の歴史を中心に日本語の概要を解説する。〔後期〕

日本語学概説（園田博文）

日本語学の基礎的な事柄について解説する。〔後期〕

日本語教育演習（園田博文）

日本語教育に関するさまざまな問題を取り上げ討議する。〔前期〕

c. 基盤教育院教員担当科目

日本語教育入門*（黒沢晶子）

学習者の文法上の問題を通して日本語を分析する。〔後期〕

⑧ 年間行事

日本の家庭訪問やホームステイ、日帰り旅行、見学旅行、地元の祭り(例:花笠祭り)などを通じて、地域の人々と知り合い、日本文化を体験することができる。そのほか、茶道、生け花、こけし絵付け、座禅、着付けなどへの参加を予定している。

- 10月 日帰り旅行
- 11月 奥の細道マイスター養成講座
- 11~12月 留学生懇談会(学部別)
- 12月 多文化交流コンサート
ー山形から世界へー
- 2月 山形県留学生スピーチ・コンテスト
- 7月 実地見学旅行
- 8月 留学生日本語発表会
花笠祭り

⑨ 指導体制

1) プログラム実施責任教員:
黒沢晶子 基盤教育院教授 言語学

2) 協力教員:
内海由美子 基盤教育院教授 日本語教育
尤銘煌 基盤教育院教授 社会学

3) 指導教員

人文学部、地域教育文化学部、または基盤教育院の教員が研究プロジェクトのための個別指導を行う。研修生は指導教員の部局に所属する。

⑩ コースの修了要件、修了証書の発行
コース概要⑦の要件を満たし、本プログラムを修了した者には、修了証が発行される。



先輩日研生が講演に來訪



漫才(地域の国際芸能祭で)



南京玉すだれ(多文化交流コンサート)



花笠祭り

■ 宿 舎

短期留学生は90名まで山形大学国際交流会館などの宿舎に入居できる。宿舎からは自転車などで通学できる。

(例:香澄町国際交流会館)

- 1) 宿舎費(1ヶ月)+共益費(1ヶ月)+保証積立金
- ・単身室 5,900円+4,000円+30,000円
 - ・夫婦室 11,900円+4,000円+36,000円
 - ・家族室 14,200円+4,000円+45,000円

2) 宿舎設備・備品(単身室の場合)

ベッド、机と椅子、エアコン、ガスFF暖房機、冷蔵庫、食器戸棚、本棚、洋服ダンス、ミニ・キッチン、シャワー、トイレ

大学近くのアパートの場合、家具・食事付きの部屋で50,000円~65,000円、家具なし・風呂トイレ付きの部屋で30,000円~50,000円、家具なし・風呂トイレ共同で15,000円~30,000円ぐらいである。さらに、入居のときに、敷金として1~2ヵ月分の家賃程度の金額を支払う必要がある。

■ 修了生へのフォローアップ

これまで10年間の修了生たちと、本学で指導に当たった教員たちとの間では継続して連絡がとられている。修了生は、ほとんどが日本か母国で大学院に進学し、さまざまな分野でキャリアを積み始めている。一人は、山形大学で修士号を取得後、国際交流の仕事に携わりたいと山形大学職員に応募し、採用された。その仕事を経て、現在は、中国でトヨタ自動車に勤めている。また、別の一人は、フィンランドで修士課程在学中に自ら翻訳会社を立ち上げている。2012年には翻訳に携わった本について、本学で講演会を行った。シンガポールの大学を卒業後、日本へ戻り、JTで働き始めた修了生は、2014年、本学の留学生懇談会で後輩たちに経験を語り、交流を深めた。

■ 問合せ先

山形大学教育・学生支援部国際交流課国際交流室

所在地:〒990-8560 山形市小白川町1-4-12

電話: +81-23-628-4017

FAX: +81-23-628-4051

E-mail: rgkokusai@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

大学ホームページ:

<http://www.yamagata-u.ac.jp/index-j.html>

プログラム責任教員: 黒沢晶子

E-mail: akuros@kdw.kj.yamagata-u.ac.jp